

巻頭言

未来を語る人材を

～ 協同組合人の育成をはかるSummerセミナー ～

生活協同組合連合会 大学生協東海事業連合 専務理事 加藤 和弘

協働・夢プロジェクトの紹介

協働・夢プロジェクト（以後、夢プロと呼びます）はコープあいち、南医療生協、大学生協の三者によって設立されました。三者は定期的に会合を持ち、共同事業やビジョンなどについて様々な討議を行っています。論議を通じ、お互いに対する理解が深まり、より協力し合える関係ができてきています。夢プロでは「協同組合人の育成」、「生協間の人材交流」も話題に取り上げて議論が交わされています。今回、学生の学びの実践事例と人材育成について簡単にですが報告します。



協働・夢プロジェクトをきっかけにして深まる次世代の学びと確信

大学生協にとって夏休みは学びと交流の季節です。学生を中心に東海地域にある各会員生協の学生委員が一堂に会し、セミナーを開催します。諸報告を聞き、意見を戦わせ、生協運動についての学びを深めます。学生にとっては、いろいろな意見を聞き自ら発言することで新たな気づきや自己発見ができる点でも、セミナーは貴重な経験です。さらに、この夏のサマーセミナーでは、夢プロを紹介して、例年以上の学びと確信が深まりました。コープあいちと南医療生協、大学生協からそれぞれ役職員にパネリストとして参加していただき、パネルディスカッションを行うことで、学生は刺激を受けたようです。（サマーセミナーの紹介は本文の記事（8p）を参照ください。）

これまでは大学生協という同質の組織内での議論ですので、どちらかと言えば内向きになる傾向がありました。今回、大学生協とは異なる協同組合の方の話を聞き、「協同組合って何？」とか「大学生協の特質は？」と言ったことについて深めることができたようです。同じ協同組合としての「想い」～「生活フィールドが違うが、想いは同じ。横のつながりを生かして、自分たちの手で自分たちの生活をよくする事業を正直にするんだ。」（感想文より）～そして、大学生協としての「違い」～「大学は学ぶ場。（両生協とは）できることは違うが、（自分たちのやれることに）こだわりたい。」（感想文より）～が鮮明になり、共感が広がっていました。

これからの協同組合運動を担っていく学生にとって、「他にも生協があるんだ。」と知ること、さまざまな協同組合を比較すること、従来とは異なる切り口（例えば、福祉活動や商品開発）から協同組合の本質を理解すること、なによりも医療分野や地域でも同じように生協が頑張っていることを実感すること、それらが発想を広げ、新たな活動を作る力になるでしょう。私たちにとっては生協の近未来の主体者作りでもあります。

「地域作り」に「協同組合人作り」

夢プロでは地域作りをテーマに掲げています。人と人がつながりお互いに助け合うことで、健康で安心してらせる“まち”づくりをすすめたと思っています。学生のセミナーの中でも議論されていましたが、「人と人がつながりまとまることで、自分たちの生活を自分たちでよりよくしていくことが協同組合」であるならば、「協同組合」の未来に共感と確信を持てる「協同組合人」、そんな人材を輩出していくことが大きな力になると考えています。東海の大学生協には1,000人の学生委員がいます。3者のお力を借りて学生の方々に協同組合体験を提供していきたい、そして未来を語る人材を輩出したいと思います。

～第5回生協職員の仕事を語る会～

地域担当の仕事で楽しいこと 困っていること!

—組合員は共に生協をつくっていく人—

文責：大島三津夫(事務局)

2011年9月4日（日）、金山のワークライフプラザにある6階大会議室に於いて、研究フォーラム生協職員の仕事を考える世話人会主催で、第5回生協職員の仕事を語る会を32人の参加で開催しました。今回は東海の3生協から女性の定時職員の方4人、グループのリーダーさん1人に参加いただき「地域担当の仕事で楽しいこと 困っていること！」がテーマです。当日の内容の一部を紹介します。



インタビュアー：田中さん 東海コープ

普段仕事をしていて、組合員さんといろいろお話をする中で、皆さん組合員ですが、仕事の中で組合員さんをどういう位置づけでお仕事されていますか。

ゲスト：鈴木さん コープぎふ



鈴木さん

組合員も、いろんな方がいらっしゃいます。すべての方がそうではないかもしれませんが、共に生協をつくっていく人という感じで接していけるといいなと思っています。こちらが売る人、買う人という関係ではなく、商品を利用していただく中で、その商品のよさを、また横へ広げていっていただく人であり、また商品をさらによくしていただける人であるというような、そういう関係がつかれるといいなと思います。配達している中で、そういう組合員がたくさんいます。

いろいろな方がいらっしゃるのでも一方通行もありますが、相思相愛になって、いろいろな方と関係を深めたい、生協を広めたいと思っています。

ゲスト：海老(かいり)さん コープあいち

職員は、生協と組合員の間立つ位置づけかなと思います。組合員さんから言われたことを、生協に伝える、生協から言われたことをお勧めする、私にしか言えないこともあると思います。そういうことを、代表して言える位置にあるかなと思います。

ゲスト：山条さん コープみえ

私の場合は、個人宅配ばかりなので、常に1対1です。お客さんですので、十人十色でいろんな方がみえます。「商品を買ってあげているんや」と言う人もいますし、「ありがとう！生協なかったら、私おれへんわ。」と言って貰えるお客さんもいます。どのお客さんとも架け橋でありたいと思います。また、そのお客さんとのつながりも、この人には、こういう話し方しないとダメという方もありますが、私は生協を知ってもらい、生協のお客さんというのではなく、一緒に仲間という人も結構います。

私は、お客さんは好きです。話したりする中で、嫌なこと、困っていることを相談されることもあります。商品でも「これだめ！」と言われると、「ごめんね、たまにあるね。」というように、一緒になって、同調して買わなくなったりということもあります。自分と同じ考えを持っているとお客さんに安心感を持ってもらえるとか、私が言ったら安心していただける関係をつくっていきたいと思っていますし、そうした関係をつくってきたかなと思っています。

インタビュアー：田中さん 東海コープ

そういう関係の中で、もう少し生協が、こうしてくれたら、組合員といい関係



古田さん



山条さん

ができるのということはあるですか？

ゲスト：海老（かいろう）さん コープあいち

私のところで半分になってしまいます。組合員さんから聞いたことを、「これ言ってもな？」と思うと、私のところで、「こういう風に言っていましたよ」と、二分の一にしたり、オブラートに包んだりして伝えるようにしています。たぶん、自分の中に、言っても変わらないという思いがあるからかと思います。伝えたいが、表現できないというか、そんな感じです。



海老（かいろう）さん

ゲスト：山条さん コープみえ

生協は、お客さんがワーと強く言う人に対して、すごく弱いと思います。言う人に対しては、「すみません」と、一から十まで聞き入れたりします。何も言わない人には、言われないからいいというところがあるという感じがある気がします。返品しろ、クレームでも、こんな返品言ってくるのかなというものもあります。お客様ですが、ある程度は言ってもいいと思うんですが。返品にしても、ワーっと言った人は引き取ります。こんなの返していいのかと思っている人も、たくさんみえると思うのですが。きつく言ってくる人にはへいへいして、そういう生協はいやだと思います。

インタビュアー：田中さん

最後に、宿題でお願いしていましたが、組合員として理想の職員像とは、どういう職員ですか？組合員の立場、職員の立場、両方を知っている人ですので、こういう人がいたら、生協の職員ならいいなというのを聞かせてください。お願いします。

ゲスト：山条さん コープみえ

自分が組合員で、こんな人が配達してくれる人がこんな人がいいという人は、時間にきちんと来てくれる人です。それから自分が商品に対して、何に対しても、気軽に応えてくれる人が安心感があると思います。聞いたことに対して、こうですよと応えて、きちんとしたことは聞いてきますという人はいいけど、何も言ってくれない人は不安です。この人は、ちょっといいのかなというような不安を与えない人がいいと思います。

ゲスト：海老（かいろう）さん コープあいち

いま思っている理想の職員は、生協の詳しいこと難しくて応えられないですが、配達に関しては、自信を持って自分はやっているの自分かなと思います。

ゲスト：古田さん コープあいち

海老さんのように「私です。」といえるといいですが。
私が、組合員だった時、しょっちゅう担当が変わりました。いろんな担当の方がいましたが、今週のおすすめ商品を、どこかに置いていて、さらっとなにげなくすすめられました。他の商品を知らなくてもいいので、例えば洗剤、例えば化粧品で、そのことを「今週はこれです。」「私も使ってみましたけどこうです。」と、時間は遅れてきてもいいので、てきぱきとしているといいです。

ゲスト：鈴木さん コープぎふ

買い物する場としてのスーパー、通販等、数ある中から、生協でご購入いただいているわけです。感謝して、その方たちに、組合員さんの生活が向上する、クオリティが高くなる、何かこう、生協を利用することで、この商品でいいところがある、得るものがある、商品を買うだけでなく、生活でプラスになるような、そんな対応ができる職員になりたいと思っています。そういう方が理想じゃないかと考えています。

ゲスト：足立さん コープぎふ

理想の職員というのを、うちの配送メンバーに聞いてみました。どんな職員が来て欲しいと聞くと、男の人だと、「下着が買いづらい！」とか、「履歴が見られちゃう。」から、と言われました。女性がいい。若くなくて、ちょっとおばちゃんがいいということです。何でと聞くと、親しみやすいし、生協のことは詳しくなくていいから、いろいろしゃべって、世間話をして、子育てのこと、家事のこと、だんなのグチも言えて、そういう関係の人に來てもらいたい、そういうのが理想で、いろいろおしゃべりができるということでした。



足立さん

報告集（冊子）の発行を予定しています。ご希望の方は研究センター事務局までご連絡ください。
第6回職員の仕事を語る会を1月29日（土）に開催する予定です。

第1回「原発事故と私たちの暮らし」連続学習交流会

食と農・環境パネル 合同企画

文責：鈴木隆司（事務局）

9月28日 名古屋都市センター特別会議室で第1回「原発事故と私たちの暮らし」学習交流会を研究センターの食と農、環境パネルの合同企画として開催しました。合同の世話人会でどのような学習会にするか、原発事故を受けて、さまざまな報道、食に対する不安、さまざまな声がある中、私たちはどう考えたいかかと相談を重ね、まずは基礎的な知識を学ぼうと準備をしてきました。

連続学習会の位置づけ →合同世話人会では以下のように確認してきました。

- (1) 研究センターの会員、団体会員を主な対象にして、基礎知識や現状の問題点を学び、問題意識を広げてさらに学習が広がるようにする。一原発の是非、エネルギー政策について自ら考えるように、一度の学習会でなく、継続した学習をすすめる。
- (2) 原発のリスクや安全性、エネルギー政策への対応をどうするか、どんな問題があり、どう私たちの暮らしを見直すか、自ら考えるものにつなげる。



第1回としては、研究センターの理事である、井関道夫先生（元愛知学泉大学教授）と斎藤 勲先生（東海コープ商品安全検査センター顧問）のお二人に講演をお願いしました。放射能・放射線の基礎知識を学び、原発事故の私たちの暮らしへの関わりと影響や食品の現状の放射線汚染と影響、生協の取り組み状況とその対応について、事前に来るだけ質問を集めて、それを踏まえた講演をお願いしました。

各先生より、テーマに沿って、放射能とは、原子炉の仕組み、放射線の単位、食品の放射線汚染の状況、規制値の考え方など丁寧にお話を頂きました。

参加者は、団体会員の役員や会員など33名で、講演後に質疑応答、感想を出し合いました。参加者からは、基礎的な知識の理解を進めることが出来たという感想を多くいただきました。また、自分なりの考えをしっかりと持つことの大切さ、放射能汚染の規制の仕方など対応をもっと期待する意見、原発やエネルギー政策をどうして行くのかなどについて様々な意見が出されました。

◆講演の概要の紹介◆ （主にパワーポイントの表題より一講演はこれを元にいろいろ話し合いました。）

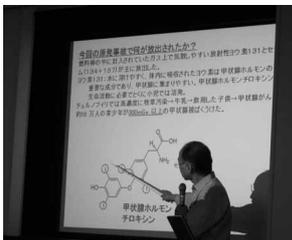


井関道夫先生「放射能・放射線と私たちの暮らし」

- <元愛知学泉大学教授（原子力工学 原子炉材料学 工学博士）>
- ・私と原子力・放射能とは一原子核が壊れるときなどの出てくる高速の粒子や大きいエネルギーを持った電磁波である・どうして放射能が出るの？
- ・人工的に作り出した放射能・放射線・放射能に関わる単位一ベクレル、シーベルト・核分裂エネルギーの大きさ・原子炉の成り立ち
- ・軽水炉の仕組み・原子力発電所の安全対策
- ・福島第一原発の現状・事故はなぜ起きたか
- ・原子力発電の短所、長所・放射性降下物とその影響
- ・放射線の人体への影響・岡崎市における自然放射能
- ・原発事故で問題となる放射性物質・食品の放射線汚染
- ・ICRPの最近の文書・原子力は本当に必要か？



「斎藤勲先生 放射性物質の食品汚染と健康影響」



<東海コープ商品安全検査センター顧問（医学博士）>

- ・除染が必要、避難の方、どうサポート。測定一人々、家庭で・プレゼント！牛肉、お茶一選んで。・日本の英知で乗り切る・今後の提案・汚染の傾向・調理による除去は可能か？
- ・暴露に対する国の評価（2011/07/21）上限は生涯100ミリシーベルト＝食品の放射性基準一安全委案・厚生労働省は規制値の見直しに着手。
- ・今回の原発事故で何が放出されたか？一放射性ヨウ素131とセシウム（134+137）が主に放出。
- ・汚染された土で野菜や果物を作ったらどうなるか？
- ・検査の手順・対応がうまい例、うまくない例・水産物の汚染・海洋での放射性物質の動き・食物連鎖を通じて濃縮・蓄積しないの？
- ・癌のリスク・個人被曝線量計ガラスバッジ配布

＝参加者の感想・意見＝ アンケートより

①理解を深めた点

・放射能、放射線についてよく分かりました。
 ・核分裂の仕組み、原子炉の成立ち、仕組みが分かり易く、福島現状を説明いただき、今後も確認していきたいです。・人体の影響を食品の汚染と健康影響について学習できてよかったです。

・放射能と放射線のちがいというか、そのものが少しですが理解できました。人工的に作り出された放射能があるということ、物質名のことばは聞いたり、本で見たりしていました。人工的に作る物質であることを知り、何か怖いものを感じました。

・放射能、放射線に関わる基礎的なことが理解できました。
 ・現状(事実)を把握すること、測定することの重要性を知りました。

・ベクレル、シーベルトの関係が今ひとつ自分の理解を超えた部分でしたが、井関先生のお話で少し分かった。食と放射能の関係より個々の検査が重要という斎藤先生に賛同。

・核、原子力発電
 ・東海コープの「活動の考え方について」を知りました。

②もっと学習交流したかった点、意見や問題意識

- ・暫定基準値に対し不安はあります。子を持つ親としては、放射能、食品の放射線汚染について理解でき納得しなければ不安です。人体の影響についてまだまだ理解が不十分です。検出限界値20ベクレルの検出限界値以下の結果でも0でなければ不安です。
- ・これからの生協として、どのように取り組んでいくのか？生産者、生産地の人たちのことを考えるとどのようにしていくのがベターか、今の段階では不十分と思いますが？
- ・風評被害の件について、もう少し理解策を出し合うような意見交流があると良いですね。
- ・原発がある以上、これからも事故がないとは言えない。今回の事も先がないと思うので、学習は必要だと思います。
- ・もっと政府が土壌汚染に力を入れてもらいたい。
- ・原発事故の収束と原発とエネルギーのこれからをどう国民として同じ価値観で話できる情報提供と場づくりを国にも求めていく必要がある。
- ・1ミリSV～100ミリSVの低線量被曝について、若い母親の不安はなかなか解決しない。子供の内部被曝を減らす為の新しい規制値と、そのための食品安全の生産、流通、検査のしくみが必要。
- ・エネルギー政策について学習や交流をしましょう。
- ・小さな子供のいる会員の不安への具体的な対応策が欲しかった。



—振り返りと今後のすすめ方について—

合同世話人会では、第1回の振り返りをして今後の進め方の検討を進めています。「人体の影響、自然放射能と人工放射能を区分して捉えるべき。・若い子育て中の方の心配に応えることが大事。・当地での汚染はこの位だが、現地の人はそれどころではない。・放射線汚染を自分で許容する判断としての相場観あるつもりだったががない。・情報提供して、しっかり理解する必要がある。・トータルの健康管理する視点が大切。内部被曝しないサポートが必要。除染も必要。・集団としての協同の生活の中でリスクの分かち合いをするべきだ。・今回の事故は地域を巻き込み環境破壊になっている。今の日本にそれを求めるのか。2020ビジョンの中で持続可能な社会を言っている。再生可能エネルギーを求めないのか。食の安全も環境問題として考えるべき。」などと話し合っています。

＝次回は、どんな学習会にしていこうか＝ 今回出された意見や問題意識などより以下の点が大切と考えます。

- ①更に基礎的な理解を深めて、放射能汚染に対する知識や考えを持つこと。
- ②放射能汚染の規制のあり方について考え、何より子供を守る取り組みを求めること。
- ③事故周辺の除染や健康影響を自分たちの問題として捉え、私たちができる事を考えること。
- ④同様の事故があれば、私たちの地域とくらしがどうなるか、それを防ぐために行動すること。
- ⑤原子力行政の問題点、エネルギー政策について学習をすすめ、考えていくこと。考え方の違いや立場を超えてどうあるべきかを議論し合うこと。などなど。

世話人会で、多くの方に要望を出していただき、次回学習会の内容の検討をすすめ、またご案内します。是非、ご参加下さい。



2012年2月4日(土)に学習交流会を開催する予定です。
 講師は、安齋育郎さん(立命館大学名誉教授 <放射線防護学>)です。

そば体験 種まきしました

食と農パネル世話人会では、今年度、会員のみなさんに呼びかけて「そば体験」をしようということになりました。というのも、食について考えるにあたり、「まず基本的なことをやってみよう!!」とみんなの意見がまとまったからです。基本とは何でしょうか。それは、自分で作ったものを食べることです。種まきから収穫までの期間が短くておすすめということで、そばを育てて食べることになりました。そばの種まきをして、収穫をし、脱穀し、石臼で粉に挽き、そばを手打ちし、味わうまでの工程に挑戦です。
文責：伊藤小友美 (事務局)

食と農パネル世話人会では、今年度、会員のみなさんに呼びかけて「そば体験」をしようということになりました。というのも、食について考えるにあたり、「まず基本的なことをやってみよう!!」とみんなの意見がまとまったからです。基本とは何でしょうか。それは、自分で作ったものを食べることです。種まきから収穫までの期間が短くておすすめということで、そばを育てて食べることになりました。そばの種まきをして、収穫をし、脱穀し、石臼で粉に挽き、そばを手打ちし、味わうまでの工程に挑戦です。

研究センター理事で世話人の野田輝己さんのご協力をいただき、「そば体験」は9月8日(木)、12名の参加で、種まきから始まりしました。会場は名古屋市守山区の野田農場(野田輝己さんの農場)です。

そばの種まきをする前に、野田さんは、まず稲刈りをしなくてはなりません。刈り取りが終わった田んぼでそばを育てるからです。「台風が近づいているので、早めに稲刈りを済ませ、畝(うね)を作る準備をしたよ。」という連絡が入ったのが、9月初めでした。台風12号が甚大な被害を紀伊半島にもたらしたのは、その直後のことです。雨がたくさん降ったので、種まきの前日、ようやく畝ができたそうです。

私たちは、準備していただいたところへ出かけていく、たいへん都合のいい「そば体験」者です。農作業の経験のない方が8割で、事前に「服装はどうしたらいいの？」などという質問が飛び交うほどでした。経験のある方も、そばは初めてという方ばかりです。

農場では、野田さんとお仲間の浅沼さんが準備をして待っていてくれました。まず、そばの種を蒔く前に、畝を鍬で少々ならします。大きな石や畝を立てるのは大変だっただろうなどと思いながら、私たちは少しだけ経験してみます。大きな草や石を除きます。みんなで交替しながら、いい汗をかきました。野田農場のトマトジュースをいただいて少し休憩してから、そばの種まきをしました。手に種をとって、さらさらと均等にまきます。浅沼さんに言われて、みんな「おいしくなってね」と優しい声をかけながらまきました。15分ほどかかったでしょうか。その後、またその上を少しならして、作業は終了しました。

メンバーで作った味噌汁と、持ち寄ったおにぎりを、おしゃべりしながらいただきました。労働のあとの昼食は、実にうまい!! 野田農場のおいしい新米も、試食させていただきました。

野田農場の周囲は、名古屋市内では珍しく自然の残っているところです。作業の後、農場の周りの見学をさせていただきました。大きなクロガネモチの木の前は、名古屋市とは思えない昔懐かしい風景です。そばが立派に育つことを願いながら、12人は帰路につきました。



重要な後日談があります。9月20日、台風15号の影響で庄内川が決壊し、野田農場が冠水しました。20分ほどの間に屋根近くまで浸水したそうです。田んぼも、畑も、ハウスも、ご自宅も、水浸しです。被害は、トラクターや軽トラック、乗用車、米の乾燥機すべてに及んでいます。研究センターからも事務局がお手伝いに行きましたがたいへんな状況で、野田農場では、毎日復興のための作業をしておられます。約1カ月経ち、ライスセンターの試運転ができるようになったとの連絡を、野田さんからいただきました。おかげさまで、そばは無事、白いかわい花をつけています。今後、収穫・そば打ちができることを祈っています。また報告をさせていただきます。

学びと気づきの支援活動

京都生協 コープ祝園店「数値を動かす楽しさ発見塾」

—夏から秋への買い場づくり—

文責：鈴木隆司（事務局）

9月22日、奈良県に近い京都府相楽郡精華町祝園（ほうぞの）にあるコープ祝園店の全職員が参加して行われている「数値を動かす楽しさ発見塾」を見学させていただきました。これは、地域と協同の研究センターが「学びと気づきの支援」として京都生協より受託し、研究センター事務局の兼子厚之が関わって開催されている「学びと気づきの場」のひとつです。

京都生協では、去年の夏過ぎから、職員ひとりひとりが創意と工夫を寄せ合って、組合員（利用者）の声を元に、組合員の利用する立場からの売り場づくりを行っておられます。21店舗あるうちの6店舗目の開催が祝園店でした。訪問させて頂いた日は、3回あるうちの最後の回となるまとめの様子を見学させていただきました。

コープ祝園店の概要

←店舗運営部の方にお聞きしました。

- ◇京都府南 近鉄、JRの祝園駅の駅ビルに立地
- ◇1日およそ2,200人の来客、およそ380万/日の供給高
- ◇店長、副店長、農産チーフとパート、アルバイトおよそ80人
- ◇開店3年目の店舗、イオンモールなど、競合店がある”



◆「良い店をみんなで作ろう」との本部の応援◆

お聞きして驚いたのは、集まるのが難しい通常営業日の午後には職員全員がそろって参加してみえることでした。それが出来るように、後方の本部職員が、レジ打ちや品出しなどの応援に入っているからです。

店舗事業担当常務理事の村田さんにお聞きしたところ、本部全体で研修をしっかりと行おうと意思統一して行っているとのこと。研修の挨拶では、「今年度は買う立場で店づくりをすることを21店舗ある全店すべてに広げていく年をしている。『あれやれ、これやれ』でなく、自分たちで考えてやることで、業績も上向きになっている。」とのことがありました。

◆自ら考え、自分たちで作り出す「買い場」◆

研修テーマは、《第1回 「ありがとう」の声をいっぱい、第2回 暮らしの願いに応える「買い場づくり」、第3回（組合員の願いと働く皆の知恵と意思をつないで）創意あふれる楽しい「買い場づくり」》です。

第3回目この日は、第2回目と考え合った「買い場づくり」について取り組んだ結果の検証と振り返りです。各チームからは、工夫した「買い場づくり」のパネルや、実際のPOP作品の写真を使った発表が行われました。部門ごと（サービスと惣菜が2チームずつ、ドライ、日配、農産、水産・畜産）に8つのチームでグループワークに取り組み、具体的な成果の報告もありました。

①



②



③



④



★①②グループワークで発表の相談、準備。 ★③運動会のお弁当のおかず投票結果、★④お月見泥棒のポップ

⑤



⑥



⑦



⑧



★⑤少量パックの取り組み発表、★⑥さわやかポテト調理見本、★⑦有人試食で売り上げUP★⑧協力して作成
◆お聞きした取り組みの感想より⇒「楽しく取り組み成果が出た」「商品があり、それを見つめて取り組んだ」「アイデアを形にする、ワクワクするコンセプトを大事にした」「地域社会の文化—お月見泥棒（子供たちがお月見の日にお供え物をもって歩く）の紹介ができた」などでした。

暑き夏に熱きセミナー

大学生協連 Summer セミナー 開催さる★

全国大学生生活協同組合連合会東海ブロック主催の「Summerセミナー2011」が、8月29日～31日、岡崎市の愛知県青年の家で開催されました。たくさんのプログラムの中、「伝説の勇者たち」と名付けられたパネルディスカッションを取材させていただきましたので、紹介させていただきます。
文責：伊藤小友美(事務局)

大学生協連東海ブロックは、愛知・岐阜・三重・静岡の4県の大学生協など(インターカレッジコープ愛知他を含む)20の会員で構成されています。このセミナーは、各生協から実行委員を募って企画・運営をしています。今年は19名のメンバーが、学びの場を準備してきました。参加者は17大学から189名でした。

Springセミナーでは、「学ぶことってどういうことなの?」「大学生活ってどういう場所なの?」を中心に学びましたが、Summerセミナーでは、「大学生協で私たちが活動する意味って何?」ということを考えます。

巻頭言で大学生協連の専務理事、加藤さんが触れておられるように、今回は初めて、地域生協(コープあいち)と医療生協(南医療生協)の参加を得て、より深く生協のことを考えることができました。そのパネルディスカッションで3名のパネリストが話されたのは次のような内容です。



◇川端宏一さん(コープあいち)◇

昨年3月、愛知県の尾張エリアのめいきん生協と三河エリアのみかわ市民生協が合併して、コープあいちが誕生しました。共同購入・宅配、お店、福祉、生活サポート事業(ふとんの丸洗い・住まい・葬祭など)、共済などの事業に取り組んでいます。組合員は間もなく40万人になります。あらためて、色々な事業に福祉の視点を取り入れ、離島や、山間地にも、商品をお届けしています。東日本大震災への支援も、継続して行っています。

地域に住んでいる組合員が生協の組織の中心です。食の安全・安心はもとより、組合員のくらしに役立ち地域に貢献できることを目指しています。いろんな人生、いろんな生活の場面を、生協はサポート支援できる組織だと思います。

◇福田勉さん(南医療生協)◇

南医療生協は、医療・介護・福祉・健康づくりに取り組んでいます。2010年3月に病院を南大高駅前に移転しました。コープあいちと大学生協事業連合と医療生協の3つで、出資して、「かふえ ろっちでーる」「レストラン れすぽわーる」「SHOP なんでもかんでも」をオープンさせました。病院らしくない病院を作ろうと、準備をしてきました。組合員は健康な人なので、健康な人が集えるスペースを作りたいからです。

「ろっちでーる」というカフェはコープあいちが、「れ

すぽわーる」(希望という意のフランス語)は大学生協が、「なんでもかんでも」は南医療生協が名付けました。

できるだけ多くの人に病院作りに参加してほしいと、千人会議を45回も開催しました。これからは地域にどう広めるかが課題です。最高年齢95歳の組合員が現役で活動しています。いろんな取り組み、役割、居場所をたくさん作る事が大事です。

◇稲吉顕吾さん(名古屋工業大学生協)◇

名工大生協の食堂は今、耐震工事に入っています。後期は、仮店舗でおにぎりやパンを販売することになります。これからの重点的な課題は、工事が終わったあとの、新しいお店、食堂づくりである。わくわくします。そういうことが大事だと思っています。大学生活をよりよくするために、自分たちが出資して利用して運営に携わり、作っていくことを考えていきたいものです。

名工大生協は法人化して来年は50周年で、今、昔の生協の写真を整理していますが、先輩がいて、自分たちがあるというのをひしひし思います。世代間のつながりを考えたいと思っています。

「大学」って「大いに学ぶ」と読めますね。みなさんには、たくさんのことを学んでほしいと思います。大学時代にいろいろな生協のこと、理念や思いや活動を知ってほしいと願っています。

パネルディスカッションを受け、質疑応答がありました。「生協の組織が果たすべき使命をひとことで言うと?」「生協にしかできないことはなんですか。」など、鋭く核心を突く質問が飛び交いました。「正直さ」「横のつながりを作ること」「生協は地球を救う」「日本がどう経済を立ち直らせるか、リーダーシップをとるのが使命だ」などと熱い思いがパネリストから語られました。「学部も大学も違う友達を作してほしい。ここで作った人脈を社会人になってもつなげてほしい。」との呼びかけは、若者達の胸にしっかり届いたことでしょう。生協による違いはあっても、根本は同じ。地域生協、医療生協の組合員が、大学生協の若い方と語り合う機会が大切だと実感しました。

INDEX

巻頭言 「未来を語る人材を」	加藤 和弘	1
地域担当の仕事で楽しいこと 困っていること!		2
第1回「原発事故と私たちのくらし」連続学習交流会		4
そば体験 種まきました		6
京都生協 コープ祝園店「数値を動かす楽しさ発見塾」		7
大学生協連 Summerセミナー開催さる		8

2011年 10月25日(偶数月25日発行)

定価200円

(税・送料込み。年会費には購読料が含まれています)

発行 特定非営利活動法人地域と協同の研究センター

代表理事 川崎直巳

〒464-0824 名古屋市千種区稲舟通1-39

TEL 052-781-8280 FAX 052-781-8315

E-mail AEL03416@nifty.com

HP <http://www.tiiki-kyodo.net/>